

縁の下からチームを支える心優しき男

小阪 彰久

AKIHISA KOSAKA

22

「ごっさん」こと#22小阪彰久は、吹田市出身。幼いころから身長が高く、活発な少年だった。『ずっと外で遊んで、ケガばかりしていましたね。スポーツも野球に水泳、空手というのがあるとやっていた』

バスケットボールと出会ったのは、中学生になってから。3年間で公式戦に勝ったのは1回だけの弱小だったが、仲間をはじめクラブを取り巻く環境が楽しかった。だだバスケは、中学で終わりにするつもりだったが……。

「引退試合で対戦した相手に、大阪で有名な選手がいました。彼を見に来た高校の監督たちの目に、『デカいやつがいる』と留まったようなんです。そのころは身長が192cmくらい。声をかけてもらったなから、家から近いので(笑)大阪学院

大学高に進みました」

普通の部活バスケから全国を目指すレベルへと、環境は一変。

「入学して自分のレベルが低すぎるのが嫌で、めっちゃ努力したんでしょね。『でしょね』というのは、1年のころのことはシンドすぎて、あまり覚えていないんですよ(笑)。2年の終わりに、3年のときはインターハイとウィンターカップに出場できました」

厳しい環境にもまれて、大阪府の年間優秀選手に選ばれた。そこから大阪学院大、実業団チームを経て17年に島根スサノオマジックでプロ選手になり、今季からエヴェッサでプレーする。

「高校生のころに試合を観た地元のチームでプレーできるのは、素直にうれしいです。熱心な応援が印象に残っていて、あの声援を今度は受ける立場になるんだと思うと、感慨深いものがありました」

チャンピオンシップ出場を目指すシーズンは、いよいよ後半戦。

「後半戦に入って、外国籍選手に疲労がかなり溜まっています。そうすると、ケガが怖い。たとえば点差が空いた試合の最後の1〜2分に僕が出て、外国籍選手を休ませるのも、自分の大事な仕事だと思っています。またアクシデントがあって、急に順番が来るかもしれない。そのための準備は毎試合、怠っていません」

「でも、愛されるエヴェッサの背番号22は、『気は優しくて力持ち』を地で行くような男。チームを下から支える『ごっさん』の存在は、その身体のように大きい。」

▲ ハニカミ笑顔の小阪選手